

銃創、爆傷等における外傷医療体制の構築に関する研究

研究分担者 木村 昭夫 国立国際医療研究センター病院 救命救急センター長

研究要旨：

銃創・爆傷患者診療指針を作成し、日本外傷雑誌（電子ジャーナル）に掲載した。内容（目次）は、Ⅰプレホスホスピタルケア、Ⅱ銃創患者の院内診療手順（初期診療、弾道学の基礎、頭部銃創、頸部銃創、胸部銃創、腹部銃創、四肢銃創）、Ⅲ爆傷患者の初期診療について、アルゴリズムや問題点を解説し、その内容を公開しパブリックコメントを募集した。その内容を要約し、医療従事者以外にも分かりやすくしたパンフレットを作成した。さらにパンフレットの最後に上記電子ジャーナルの Web ページ行く QR コードを付けた。最終年度では、全文を小冊子にまとめ、重症外傷診療の中心的な担い手となる日本外傷学会の全評議員に、今後の日本の銃創・爆傷診療に役立ててもらおうよう、郵送配布した。

A. 研究目的

世界的にテロの発生件数は急激に増加し、2014年には年間17,000件を越えている。ここ20年間、わが国では大規模なテロは発生していないが、日本国民をターゲットとしてテロ行為を行う可能性は存在する。このように、現在の国際情勢や国内での東京オリンピック・パラリンピック2020など重要国際イベントを控え、テロ発生に対する医療者の備えが必要である。しかし、わが国に銃創患者・爆傷患者診療の経験がある医師は非常に少ないことから、診療手順を整理した診療指針を策定・普及させ、この弱点を少しでも解消しておく必要がある。本分担研究に付託された目的は、銃創・爆傷患者に対する診療指針の作成とその知識の均霑化である。

B. 研究方法

銃創・爆傷患者診療指針を冊子化し、銃創・爆傷患者診療の中心的な担い手となる重症外傷の専門家である日本外傷学会の全評議員に、熟読されること。またその内容を要約した医療従事者でない人も理解できるようなパンフレットにまとめること。

（倫理面への配慮）

2次資料のみを用いた研究であり、倫理面で特記すべきことはない。

C. 研究結果

約7万字に及ぶ包括的な銃創・爆傷患者診療指針を作成しWeb上に掲載<https://doi.org/10.11382/jjast.32.Ver1-1>した。以下に目次を示す。

Ⅰ章；プレホスホスピタルケア総論

Ⅱ章；銃創患者に対する院内診療手順

（初期診療、弾道学の基礎、頭部銃創、頸部銃創、胸部銃創、腹部銃創、四肢銃創）

Ⅲ章；爆傷患者に対する初期診療の重要事項（詳細は成果物を参照）

さらに、A4；63ページに冊子化し、銃創・爆傷患者診療の中心的な担い手となる重症外傷の専門家である日本外傷学会の全評議員に郵送した。

他方で上記指針の内容を簡略にまとめ、A6版とし、医療従事者でないボランティアでも理解できるようにした。具体的には、見出しや図表、赤字で示した文章を読むだけで、概要を把握できるようにした。内容は、銃創・爆傷の病院前救護や初期診療を中心とし、図表も分かりやすいものにした。全6ページの見開きとし、パンフレットの最後に銃創・爆傷患者診療指針をダウンロード可能なWebサイトにアクセスできるQRコードをプリントした。

D. 考察

指針を要約したパンフレットは見やすいもの

となり、医療従事者以外のボランティア等にも理解しやすいものとなった。日本救急医学会学術集会等でも配布したが、受取った医師・看護師等からは好評であった。また、オリンピック・パラリンピックが無観客で行われるようなことになっても本研究の成果が今後の日本の外傷診療においてレガシーとなるべく、今後も銃創・爆傷患者診療の中心的な担い手に熟読してもらえるよう郵送配布した。

E. 結論

銃創・爆傷患者診療指針を作成し、熟読されレガシーとなることを目指して冊子化し、日本外傷学会の全評議員に郵送配布した。またその内容を要約し、医療従事者以外にも分かりやすいA6見開き6ページの簡易パンフレットとした。

F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表

- ① 銃創・爆傷患者診療指針 日本外傷学会雑誌 32巻, 3号, p. Ver1-1-63, 2018.
- ② 銃創・爆傷 日本医師会雑誌 149巻特別号(1), S100-106, 2020.

2. 学会発表

なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし